

面接試験の口頭試問

目次

- [面接試験における口頭試問にどう答えるか？ ～事前に準備できるのは一つだけ～](#)
- [資格を取ったらどう活かすか？ ～3つのポイント～](#)
- [資格を取ったらどう活かすか？ \(2\) ～STARで表現しよう～](#)
- [キャリア面接試験の口頭試問 ～主訴構造化のポイント～](#)

【執筆者】 稲田 豊

フリーランスのキャリアコンサルタント(国家資格)。博士(工学)、CDA、心理相談員(中災防)、防災士。

1967年生まれ、愛知県在住。

[担雪埋井 \(たんせつまいせい\) カウンセリングを通して Well-being なキャリアを考えるブログ \(tans-mysay.com\)](#)

ご意見、ご感想をお寄せ下さい。 yopperinada@gmail.com

Copyright 2024 Yutaka Inada, All right reserved.

面接試験における口頭試問にどう答えるか？ ～事前に準備できるのは一つだけ～

キャリアコンサルタント試験（JCDA）の口頭試問でよく聞かれるという4つの質問。

- 出来たところ、出来なかったことは何ですか？
- クライアントの来談目的と主訴は何ですか？
- この先カウンセリングを続けるとしたら、どのように展開しますか？
- この資格を取得出来たら、どのように活かしますか？

この質問にどのように答えるか皆さん悩みますよね。正解・正答はありませんが、ここは大事ではないかと思うところについて、仲間内の勉強会を通して学んだことを書きます。これは国家資格キャリアコンサルタント試験～実技試験の面接試験（JCDA）を対象としたものです。キャリアコンサルタント協議会のそれは少し異なるようですので予めご容赦下さい。

出来たところ、出来なかったことは何ですか？

- 『受容共感一致できました』とか、『クライアントに寄り添えました』とか、一般的なことを言いがちですが、これでは弱いと思います。
- なぜそう思うのか、面談中の具体的な場면을提示して示すのが良いと思います。例えば、「私が “あなたにとって〇〇〇とは、どういうことなのでしょう？” と質問した時、上を見上げて暫く考え込んでいましたので、内省を深めることが出来たように思います。」などと具体的に答えられると良いと思います。
- 出来なかったこと、失敗してしまったことがあれば、『出来なかったこと』の中で振り返ればよく、失敗を自覚できているなら問題ありません。
- 『出来なかった』『失敗しちゃった』と諦めることなく、口頭試問で取り返せるので、諦めずに挑みましょう。

クライアントの来談目的と主訴は何ですか？

- この二語、同じ意味と捉えている方もおられるようですが、分けて答えられた方が良いでしょう。
- 来談目的は、『今日はどうなご相談で来られましたか？』と問いかけた際、クライアントが最初に発したフレーズです。言葉を言い換えず “そのままの表現” で答えましょう。例えば『定年後、どうしたらいいか悩んでいる』とか。サッと書き留めておくとも良いかもしれません。
- 主訴はカウンセリングを続けていくうちに見えてきた、クライアントの悩みの構造です。クライアントが描く、ありたい姿と、そうはならない現実とのギャップです。
- ありたい姿、現状、ギャップという、問題解決手法の言葉ですが、これを単なる出来事の問題と捉えないことが肝要と思います。無機的な話ではなく、感情が伴う話であり、それが良い悪いと判断出来るものではないのです。



- 来談目的で語られた悩みとは変わっていることもあります。カウンセリングの中で CL 自身が気付くことで、変わってくることもあるのです。
- 15 分の短いカウンセリングでは、主訴にまで辿り着かない場合もあるかと思います。その場合、『現実には語ってもらええ、ギャップは見えただが、ありがたい姿、クライアントの価値観までは未だ語ってもらえていない。だから未だ明らかでない。』と答えれば良いかと思います。
- 主訴の構造を明らかにしようという意図を持って、カウンセリングを進めていることが伝われば良いと思います。くれぐれも感情、価値観の問題なので、出来事の問題と捉えないようにすることが重要です。
- 主訴、問題は論述試験の問 3 で問われている事です。

この先カウンセリングを続けるとしたら、どのように展開しますか？

- 経験代謝のプロセスにおいて、このカウンセリングがどの辺りまで来ているか、俯瞰出来れば良いと思います。『これまでにクライアントのこんな価値観が見えてきたので、次はこんなことを聴いてみたい』といったように、今後を展望するのが良いかと思います。
- このとき問題をどう解決するか的主导権は、クライアントにあることを忘れないようにしましょう。キャリアコンサルタントの『こうすれば良い』という思いで無理に誘導しないようにしましょう。
- これは論述試験の問 4 で問われていることです。

この資格を取得出来たら、どのように活かしますか？

- カウンセリングの内容とは関係なく、必ず聞かれるので、答えを用意していくのが良いと思います。私は以下の 3 点を端的に伝えれば良いと考えます。①自身の職業、立場、②問題意識、課題観、③上記課題をどう解決したいか？ どのように社会貢献したいか？
- 前の質問で時間がなくなると『短く答えて下さい』と言われるようです。思いを語りたい気持ちをぐっと抑え、30 秒くらいで答えられるよう、何度も練習していきましょう。□



資格を取ったらどう活かすか？ ～3つのポイント～

キャリアコンサルタント実技試験の面接において、必ず訊かれる質問です。これは予め準備ができる唯一の質問ですね。ロープレ会で口頭試問の練習をすると、「待ってました！」と言わんがばかり朗々と語るオジサンが沢山います(笑)。かく言う私もそうでした。しかし最後の質問なので、残り時間は僅か… あんまり長々と語ると「端的に答えて下さい！」とお叱りを受けるようです。私は受験生の皆さんに以下のようにアドバイスしています。



- 試験官の方は、あなたの素性を知りません。履歴書を提出して受験している訳ではないので、どんな仕事をしている人なのか分からないのです。まず、①自分は今どんな仕事をしているのか？を端的に説明しましょう。
- その仕事をする上で何かしらの課題感を持ったから、キャリアコンサルタント養成講座を受講したのだと思います。②仕事をする上で、どんな課題感を持ったのか説明しましょう。
- その上で、③資格を取ったら何がしたいか？を説明しましょう。「社内でキャリア支援室を開設して、若い人のキャリア形成を支援したい」とか、「仕事と介護の両立支援について取り組んでいきたい」など事前に語った課題感の解決につながる具体的な活動を示しましょう。
- 基本、上記①～③の3本柱で構成するといいでしょ。
- ③において短期的～中長期的取組みを述べると、将来的な展望が伝わるでしょう。また身近な問題だけでなくアドボカシーに関することまで語れば、社会的な使命感も伝わるでしょう。
- それ以前の質問に要する時間にもよりますが、30秒～1分以内で語れるように準備しましょう。何度も何度も実際にしゃべってみて、暗記してしまいましょう。どんなに緊張していてもサラサラと話せるようにしましょう。



最後に、私がある方から受けたアドバイスを紹介しましょう。

「試験官は“落としてやろう”などと思って質問している訳ではありません。貴方がキャリアコンサルタントの仲間として、相応しい人物かどうかを見ているのです。」

この言葉を聞いたとき、私は肩の力が抜けました。キャリアコンサルタントは同業者にとっても寛容なのです。「キャリアカウンセラーはより良い社会、つまり“共に生きる社会”をデザインする存在でありたい」(JCDA ビジョン)と言っているくらいですから、多くの人に資格を取得してもらいたいと考えているのです。



どうでしょう？ 気が楽になりましたか？ 口頭試問ではキャリアコンサルタントとして生きていくという、熱い気持ちが伝わればいいのです。□

資格を取ったらどう活かすか？（２） ～STAR で表現しよう～

キャリアコン実技試験（面接）の際、必ず訊かれる質問「資格をとったらどう活かしますか？」にどう答えるべきかについては、ココにも示しました。今回は就職や転職面接の際に良く使われる、STAR というフレームワークを使ってみましょう。STAR とは…

- Situation（状況）
- Task（課題）
- Action（行動）
- Results（結果）

の頭文字をとったものです。例えば、ガクチカ（＝学生時代に力を入れたこと）について使うならば、

（状況）私の学生時代は、ほぼコロナ禍でした。演劇サークルに入っていましたが、練習も公演もままならない状況でした。

（課題）何といても演者がマスクを外せないことが問題であり、それでは感情が伝わりません。また使える劇場は狭く、十分な換気が出来ないので、三密が避けられません。

（行動）そこでリアル講演を諦め、リモート会議システム上でストーリーが展開される、独自のシナリオを、私が作成しました。それを動画にして YouTube 上にて公開しました。これならば、演者はマスクをする必要がなく、視聴者は自宅で閲覧できます。

（結果）その動画は多くのメディアで紹介され、総再生回数 10 万回を達成。演劇サークルの評価を上げることができました。

こんな感じですね。貴方の凄さが面接官に伝わりますよね。「キャリアコンとったら～」も同じノリで答えればいいのです。

（状況）私は自動車部品メーカーの研究所に勤務し人材育成に従事しています。この業界は百年に一度という大変革の時にあります。

（課題）研究者は、これまで専門としてきた技術領域から、新しい領域へ、テーマを転換せざるをえなくなっています。これは大きなキャリアチェンジなのです。

（行動）私がキャリアコン資格をとった際には、研究者のリスクリングを推進し、キャリアチェンジを支援したいと考えています。

（結果）それによって、時代の変化に即した研究テーマへの転換を図り、会社の業績向上に貢献していきたいと思います。



どうです？ どんな課題感を持って、何をしようとしているのか、簡潔かつ明確に伝わるのではないのでしょうか？ ぜひ、STAR というフレームワークを使って見て下さい。この答え方が身に付くと、相談者さんに対する模擬面接の指導にも活用できますよ。□

キャリアコン面接試験の口頭試問 ～主訴構造化のポイント～

以前ここでも述べたように、論述試験で問われていることと、面接試験で問われていることは、ほぼ同じです。問い 3 は主訴を問うており、問い 4 は今後の進め方を問うています。よって、以下のような質問をすれば、経験代謝を意識したカウンセリングをしようとしていたのか否か、だいたい分かってしまいます。

- 相談者の来談目的は何でしたか？
- 相談者はどんな価値観を大事にされている方ですか？
- どんな経験をして、その価値観は揺らがされましたか？
- 貴方が再現しようとしたのは、相談者のどんな経験でしたか？
- 経験の中に、どんな景色が見えてきましたか？

経験代謝のサイクルを意識していれば自然に答えられますね。これらをまとめれば、主訴は明らかです。

- 相談者は～で悩み、相談に来ました。
- 相談者は～であること（もしくは“～でありたくないこと”）を大事にしてきました。
- しかし、～な経験をすることで、その価値観が揺らがされ、悩んでおられるようです（＝主訴）。

これを確認した上で、「さあ、それではこの後どう進めますか？」（問い 4）と訊ねれば、キャリアコンとして、どう相談者に向き合おうとしているのか見えてきます。キャリアコンサルタントである貴方は、

- この相談者は、どんな悩みを持ち、何を聴いて欲しくて、ここに来たんだろう？
- この相談者は、何を大事にしている人なんだろう？
- その価値観が揺らがされるような経験をしたんだよね？ それはどんな経験なんだろう？ 相談者の目線で見よう。



という好意的関心を持って関われば良く、主訴は自然に明らかになってくるのです。

ちなみにカウンセリングがとても上手く進められ、面接官の方が『ああ、この受験生、しっかり経験代謝を意識していて、主訴を訊くまでもないなあ…』と判断された場合、全く違う質問が飛んでくるかもしれません(笑)。

例えば『～な話になったとき、～と質問されましたよね？ それは何故ですか？』など、質問の意図を確認されるかもしれません。それは、より高度な質問ですから、慌てることなく感じたままに答えれば良いでしょう。『主訴なんて問われなかった。何かやらかしてしまったんじゃないか？』などと焦る必要はありません。試験官の方と、カウンセリングの余韻を味わえば良いのです。□